

白楊ヶ丘札幌

理数科の教育に期待する



札幌支部 支部長

黒田 信彦
 (第七三期・昭和四十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部第

四十回定期総会・懇親会を四

年振りに開催できることにな

りました。感染症が発症した

場合は三年間程続くと当初か

ら言われていましたが、三年

以上にわたる様々な自粛や制

限からようやく解放されつつ

あり、社会生活全体に活気が

蘇ってきたことを嬉しく思っ

ています。しかし、完全に終

息したわけではなく、感染者

の微増が続いており、最初の

頃より重症化には至らないも

の決して安心できる状況ま

では至っていません。

こうした中、札幌支部では

同窓会の開催について実施時

期を検討しつつ、更に同窓会

の拡大や今後のあり方などに

ついて年に二回程の役員会を

開催する中で検討を重ねて参

りました。今回は実施時期を

九月に変更し、新たな会場で

久々に実施でき、同窓の方々

とお会いできるのを楽しみに

していた方も多かったと思っ

ています。

さて、母校の函館中部高校

では今年度から普通科四クラ

ス、理数科一クラスに再編成

され、初の理数科を設置しま

した。先日、函中日より「白

楊魂」が学校から届き、着任

された清水校長先生のご挨拶

と今春の進学実績を拝見しま

した。理数科は一九六〇年代

の高度成長期において全国各

地で国策として設置された経

緯があり、当初は日本の工業

化の進展に向けた物づくりを

中心として、高等学校におい

て理数科目に力点を置き理工

系の大学に進学し社会で活躍

する人材の育成に力を入れて

いたと思います。その後、時

代は大きく変容し、理数科の

解体や学科転換を行った学校

も多く見られました。そして、

最近ではAIの急速な進展や

バイオテクノロジーの発展な

ど私達を取り巻く環境は大き

く変わり、新たな視点からの

理数教育が求められています。

こうした中で、中部高校では

以前から文科省からスーパー

サイエンスハイスクー

ル(SSH)校を、道

教委から医進類型指定

校を受けながら理数教

育に力を入れた教育が

進められており、この

度の学科転換は時代に

見合った取り組みかと思

われます。

また、今春の進学実

績を見ても、現役で国

公立大学に百五十九名

が合格し、東大と東京

医科歯科大にも現役で

各二名が合格するなど素晴ら

しい実績を上げており、今後の

益々の活躍に期待しています。

さて、現在、札幌市内だけ

で千名を超える同窓生が在住

しておりますが、これまでは

同窓会の活動内容について調

べる手段がなく、母校の近況

報告や同窓会の活動内容を少

しでも理解して頂き関心を高

めてもらいたいという思いか

ら、役員会において札幌支部

のホームページの作製の検討

を進めて参りました。ホーム



五稜郭

ページが存在することで、これまで同窓会にあまり関心のなかった方や、若い同窓会員の方々に対して簡単に情報を共有しながら少しでも支部の活動に参加していただき、同窓会の縦横の繋がりが広がるきっかけになればと思っています。そして、毎年実施する総会・懇親会に出席する方が増えることを期待しています。

母校は再来年の二〇二五年には創立百三十周年を迎えます。明治二十八年（一八九五）に函館尋常中学校として旧制中学校では道内最古の学校としてスタートし多くの有為な人材を輩出した文字通りの名門校であり、この歴史は今後も脈々と受け継がれていくものと思われ、今後の理数科教育の充実を大いに期待しております。

同窓会活動再開にあたり



白楊ヶ丘同窓会会長

室 田 晴 康

(第七五期・昭和四十八年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様方におかれましては、益々ご健勝にてご活躍

のこととお喜び申し上げます。黒田支部長を筆頭に素晴らしい同窓会活動に敬意

を表します。

新型コロナウイルス感染症の影響にて、函館本部も三年間総会・懇親会を開催されずにいました。昨年は、函館市民会館小ホールにおいて総会のみを開催しました。さすがに、懇親会が開催されないこともあり、三十名程度の参加となりました。すべての議案も可決され、三十分程度で終了することが出来ました。その中で、会長、幹事長の任期は、原則三期程度とすること、これは会長、幹事長の労力の軽減を図ると共に、多くの人に経験をしてもらい、同窓会のより良い活性化を図ることを目的としています。総会后、各期において少人数ながら懇親会を開催した期もあったようです。

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる二類相当）」としていましたが、今年五

月より「五類感染症」に代わりました。すでに、市内の各高校においても、総会・懇親会を実施しております。白楊ヶ丘同窓会としても今年より平常通り、総会・懇親会を実施いたします。しかしながら、会場等の条件もあり、会費の値上



五稜郭タワーから母校を眺めて

げ、懇親会形式もさま変わりしてあります。

明治二十八年（一九〇五年）、函館尋常中学校として開校、昭和二十五年には現在の校名である北海道函館中部高等学校になり、幾多の変遷を重ね今日に至っております。令和七年には百三十周年を迎えます。来る節目の年には、同窓会・学校・生徒・PTAが一体となった活動を展開したいと考えております。今後、この事業を完遂するため、百三十周年実行委員会を組織し、式典委員会・祝賀委員会・記念誌委員会・募金委員会がそれぞれ実務活動を行うこととなります。

し上げます。これからも、母校はもとより、会員の皆様にも魅力ある同窓会にする努力が求められ、そのためにも、同窓会活動の充実・発展を考え、一人でも多くの会員の皆様のご理解とご協力、そしてご参加をお願い致します。同窓会が自分に何をしてくれるかではなく、自分が同窓会に何が出きるかを一人一人の同窓生が考え、白楊祭、各部活などの学校行事で培った「仲間」との結びつきを思い出し、このような時代だからこそ、その繋がりを大切に、行動を起こすことで各支部同窓会はもとより、白楊ヶ丘同窓会が発展すると思えます。

葉の中に、「人生は邂逅である」と言う一節があります。世界の人口約八十億人、日本の人口一億二千六百万人おりますが生涯において、何人の人と知り合うことができるでしょうか。出会う人によってその人の人生が変わることもありま

道における暴力の存在は決して許さない」という強い決議のもと、柔道指導者に限らず柔道を行うすべての者に対し、いかなる暴力行為も行わないことを強く求めてきました。その後、各スポーツ界においても暴力、パワハラ、セクハラ行為が発覚し、スポーツ界全体として改善されてきました。しかし、一時は改善の兆しを見せたかに思えた「暴力・パワハラ・セクハラ」問題でしたが、「選手の能力向上のためには指導の中

で暴力も必要である」と妄信する指導者や年長者による問題行為は収まることはありません。「指導とパワハラの境界線が不鮮明」と捉えてしまい、「指導の一环である」として表面化しない問題事案も数多く存在すると言われています。暴力行為とは、身体への攻撃は基より、最近では特に精神的な攻撃があります。脅迫、名誉棄損、侮辱、暴言、叱責等、人格を否定するような言葉、むやみに怒鳴る行為等があります。その他



五稜郭駅付近

にも、無視、仲間外し、口をきかない等人間関係からの切り離し。明らかに不要なことや、実行不可能なことを要求する。合理的な理由なく、程度の低いことをさせる。プライバシーの侵害、セクシャルハラスメント等があります。指導者は、「自分が一番正しいという妄想」を改め、他の人の意見にも耳を傾け、常に学び

続ける姿勢が大切です。どのような組織においても、気を付けなければなりません。札幌支部の皆様方におかれましては、帰省、家族、友人等で函館に是非来ていただきたいと思えます。最後になりましたが、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。

東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長
白川正広
(第七六期 昭和四十九年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には、お変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より、当東京支部へのご支援に厚くお礼申しあげます。

札幌支部報三十六号の誌面をお借りして、東京支部

と対面で対話する機会がなくなっていました。そのため、実は、この数年の間に役員改選のタイミングも巡ってきたのですが、会員各位に周知しないままメンバーが交代になるのはよろしくないと判断し、コロナ前と同じ役員体制となっております。

さて、東京支部の主な行事として、札幌支部と同様、秋に、会員全員に呼び掛けて大会を催しております。活動方針や人事の件は各期の幹事が集まる春の評議員会で済ませ、秋の大会では議決のようなことは行いませんので「親睦大会」と呼んでおります。それも思うように開催できず、二〇二〇年は中止しました。一方、それぞれの会員の皆様の職場や学校のなかでパソコンやスマートフォンを使って連絡をとることや会議を行うことが一般的になってきましたので、二〇二二年、

二〇二二年は大会をオンラインで開催致しました。二〇二一年は、中部高校とりモートでつなぎ、校長先生にご挨拶いただきました。また、校舎内や屋上から見える景色の中継などを教頭先生に行っていただきました。平成の初期に建て替えられた校舎は、関東在住の多くの同窓生にとつて足を踏み入れたことがない空間であり、高校生の時に見た屋上からの景色と違った校舎内や周辺の風景も斬新なものでした。函館在住の幹事期の同期のメンバーの協力も得て「函館の今昔からなる動画」を作成していただきました。

二〇二二年、昨年は二回目のリモート開催でした。幹事の同期の著名な方による「道南にちなんだ講演とクイズ」を配信本部と外部からの参加者をZoomによって双方向で繋いで回答していただき盛り上がりました。

札幌や函館からも酒井幹事はじめ、リアル開催ではありえなかった遠方の皆様のご参加を得ることができました。

いずれの会も、「五十歳になった期」の皆様は幹事期として企画運営をお願いしました。三十歳、四十歳の頃は、仕事や子育てが大変で、同窓会の存在は知っていても時間を割いて行事にご参加いただくことは難しいものと思えます。五十歳を迎えて、親睦大会の幹事を担当する順番になったことを契機に、同期の皆さんと改めて連絡を取り合つて幹事を担当します。このご縁で、それから先、六十歳以降になつても同期の方とつながることができている幹事経験の期の皆さんが多くなります。

今年秋は、九十二期、平成二年に高校を卒業した



2023 東京新人歓迎会の様子

この行事もコロナのため中止せざるを得ない時期が

ます。

りということを新卒者にもお話してい

い頭の隅にしっかりと

た。十九歳から四十

の約三十年間は、

前年から始めまし

十九歳の夏に集まっ

う、「新人歓迎会」を

なつて、大勢で参加して

活させました。七月二日に

東京市内のイタリアンの

お店を予約し、今年の春に

高校を卒業した百二十五

期の皆さんが九名参加し

てくれました。新人の皆さんは、

次は、「令和三十五年」頃

に四十歳台の後半となり、

そろそろ同窓会の役割があつたと

スウィッチを入れてもらうことになれ

ば組織は安泰です。

少子高齢化の時代の波

は函館にも影響し、小中学校が

次々に統廃合していると聞いて

います。わが函館中部高校も、この

先、定員減少やクラスの削減とい

う施策が必要になるかもしれませ

ん。あるいは、西校と稜北高校の

統合があつたような変化があるか

もしれません。新卒者の皆さんが

三十年後の役割をしつかり認識

して、同窓会は時代にあわせて運

営方法を少し変えるような微調整

が必要であつたとしても、とりあ

えず令和三十年頃までは継続して

いくことが可能であると考えてお

ります。

例年、高校を卒業した後、五十

名前後の方が東京はじめ関東の

大学に進学されま

『次代を創造する人間の育成』を 目指した教育



北海道函館中部高等学校長

清水 信彦

日頃より、黒田信彦支部長様をはじめ、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には、本校の振興と教育活動へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。私は、この度の人事異動により、石狩管内江別市の大麻高等学校から赴任してまいりました清水信彦と申します。私自身、本校の卒業生で同窓会の一員ですので、母校に赴任できたことをたいへん嬉しく思っております。微力ではありますが、道内有数の歴史と伝統を誇る母校の名門函中のさらなる充実・発展

に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

紙面をお借りしまして、学校の近況等についてご報告させていただきます。

一 ポストコロナを 見据えた教育活動

コロナ禍での教育活動が実に三年以上も続きましたが、今年の五月八日に新型コロナウイルス感染症が第五類に移行したことに伴い、基本的な感染対策は継続しながらも、ほぼ活動制限のない通常の学校生活が戻ってまいりました。

特に、五月十二日には、四年ぶりに大沼グリーンピアでの耐久レースと春季遠足を実施し、七月七日〜九日には、生徒にとって高校生活の最大イベントである白楊祭を三日日程で、一般公開を含めた形で開催いたしました。

一般公開も四年ぶりであって、来場者用として準備していたスリッパが不足するほど多くの皆様にお越しいただき、白楊祭は盛会のうちに終了することができました。

ただし、このような行事全てをコロナ前と同じことをやるわけではなく、生徒会や実行委員の生徒たちが中心となって、創意工夫ある新たな企画・運営をする形で開催することになっています。

今年行事だけではなく、本校ではポストコロナを見据えた教育活動の在り方を考え、実践して

いく新たなスタートの年となっております。

二 学習と両立する 部活動

本校が掲げている文武両道の精神を継承し、部活動においても全校生徒の約九

十%が加入しております。現在のところ、野球部、陸上競技部、テニス部、バスケットボール部、水泳部、卓球部、バドミントン部、体操部、剣道部、弓道部、囲碁・将棋部、放送局、LMC（軽音楽部）、書道部



函館中部高等学校 外観

など多くの部活動が全道大会への出場を果たし、また陸上競技部、放送局、書道部については全国大会への出場権を獲得する活躍をみせてくれています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、中止となる心配もなく大会が開催され、また三十六年ぶりに北海道開催の高校総体（インターハイ）の年ということもあり、例年以上にどの競技も盛り上がりを見せていました。さらに、七月に野球部が夏の選手権大会函館支部予選の代表決定戦に進み、五年ぶりに全校応援を実施しました。その応援の声を背に、見事に十年ぶりの北海道大会の出場権を手にした際には、部員と顧問はもちろんのこと、全校生徒、保護者、OB・OG、同窓会の方々と学校関係者全員で母校の勝利に歓喜し、母校愛に満ち溢れる一体感を感じた嬉

しい瞬間を味わうことができました。

令和四年度

三 (二〇二二年度) 卒業生の進路状況

この三月に卒業した二百二十八名の合格状況についてご報告いたします。

国公立大学は延べ百五十九名、私立大学・短大延べ二百二十三名、高等看護学校延べ五名、専修学校三名となつていきます。特に、国公立大学の現役合格数が卒業生在籍数の約七十%という過去最高の合格率となりました。内訳は、東京大学二名、大阪大学一名、東北大学三名、北海道大学十名、医学部医学科七名をはじめ、難関国公立大学にも合格者を多数輩出しています。私立大学においても、早稲田、慶応、明治、法政、立教、中央、青山学院など首都圏の大学に多数の合格者を出しており、たゆまぬ努力をし続けた生徒たちの

頑張り実績が北海道内において高く評価されています。

四

理数科設置二年目、スーパーサイエンスハイスクール（SSH指定校）四年目

昨年度から新たに理数科が設置され、普通科四クラス、理数科一クラスの五クラス編成となり二年目を迎えました。

理数科では、科学的事象に興味をもち、筑波宇宙センターJAXAの研究施設や東大の本郷キャンパスの訪問等を通して、理科や数学等の専門性を高め、その専門性を将来にわたって追究しようとするスペシャリストの育成を目指しています。

また、文部科学省より「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受けて四年目を迎えます。普通科の生徒たちも

理数科の生徒たちも、大沼の自然環境調査、課題研究の発表、大学の先生方の講演会や研究施設を訪問する中で、自らが問いを立て、その問いを解決するための探究的な学びを深め、世界で活躍できる科学系人材の育成を目指しています。

上記の他にも、英語教育の取組として海外六大学との連携による短期留学制度や、今年は三年生で英検一級に合格する快挙を成し遂げるなど資格取得にも力を注ぎ、また医進類型の研究指定事業の取り組みにより、医学部を目指す生徒のための教育体制を充実させるなど進化し続けていくと信じています。

結びになります。が、本校は、これからも「白楊魂」を柱とした函中の輝かしい伝統を継承しつ



函館中部高校前の千景の隣にスーパーが

つ、社会の動向や未来を見据えた教育活動に積極的に取り組み、この予測困難な変化の激しい時代に求められている「次代を創造する人材」を育む生徒主体の教育を推進してまいります。今後とも同窓生の皆様には、本校の教育活動に対して多大なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

2019年度～2022年度 収支計算書

【収支の状況】		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
収入の部	年会費収入	214,000	0	0	0
	終身会費収入	70,000	15,000	0	0
	総会懇親会会費	251,000	0	0	0
	寄附金その他	482,010	6,002	200,002	100,004
支出の部	総会懇親会費用	358,000	0	0	0
	印刷費	257,660	0	0	0
	郵送費	181,231	12,250	0	370
	旅費・会議費他	184,645	13,593	0	93,610
繰越資金残高		1,323,663	1,318,822	1,518,824	1,524,848

※2021年度は20万円、2022年度は10万円、同窓会本部より補助金がありました。

函館中部高等学校校歌	函館中学校校歌
<p>作詞 函館中部高等学校教諭 藤原直樹</p> <p>作曲 函館中部高等学校教諭 酒井武雄</p> <p>一、火柱のはためく峰も 年古りて緑の臥牛 宇賀の浦風の砂山 波よせてくずれ流るる 見よや物なべてうつろふ 窮みなし流転の相</p> <p>二、北の国雪深けれど その底には草は芽ぐめり 野山荒れ鳥潜めども やがて来ん春の光に 万象の蘇る見よ ここにあり不滅の生命</p> <p>三、白楊のさやめく丘辺 秋深き梢仰げば 牙え渡る銀河の彼方 幽けくぞ星雲燃ゆる 胸に満つ久遠の思ひ 遙かなり真理の彼岸</p> <p>四、限りなき流転の中に 生命あり不壊の学び舎 聞けや今窓の外遠く 新潮の入りくるひびき よしさらば若人われら 踏まんかな希望の門途</p>	<p>作詞 第一高等学校教授 土井晩翠</p> <p>作曲 東京音楽学校教授 岡野貞一</p> <p>一、玄冥の北の一道 関門の岸に臨みて 青春の薫にしるく 基おく育英の場</p> <p>二、集い寄る千余の子弟 人生の花の綻び 身を鍛へ心を練りて 向上の一路を辿る</p> <p>三、宇賀の浦万頃の水 駒が岳千仞の山 微を積みて高きに至り 滴より空をもひたす</p> <p>四、形ある無言の教 仰げ我が紅顔の子等 業成らば双の方の上 興国の運も負へかし</p> <p>五、母校の名子弟の誉 花と香と常に伴ふ 任重く道の遠きを 嗚呼健児勉めざらめや</p>

編集後記

数年ぶりの支部報編集となりました。今年の七月中旬、仕事の都合で函館を訪れる機会があり、その時の写真をいくつか支部報の中で紹介させていただきました。偶然ですが、滞在した数日は、日本消化器外科学会、数年ぶりの函館港花火大会、函館競馬場のプレゼンターとして女優の長澤まさみさんが来場とタイミングが重なり、函館市以外から多くの人々が函館市に足を運んでいたようです。ホテルも一泊料金が驚くほどの金額でした。また、この数年のコロナ禍の影響のなか、ラッキョピエロをはじめとする飲食業界の働き手が少ない印象で、求める客の数の割に、供給が追い付いていない印象を受けました。地元の方に聞いても、事前に予約でもしていないとすぐには出てこないよとの声も。居酒屋も予約客でいっぱい、一見さんお断りといった状況も。アフターコロナ社会はこのような弊害をもたらしているのでしょうか。仕方がないで済みますことなく、また、思い通りにいかないから諦めようではなく、これからの社会をもう一度つくり直す気概が求められているのだと感じました。

(二〇四期 中村大輔)